

静岡計画2050

－地域特性に応じた都市計画の提案－

1. 研究の背景と目的

地方都市における人口減少、少子高齢化、地域産業の衰退が大きな問題となっている今日、国土交通省は「国土のグランドデザイン2050」において、長期的視点に立ち、それぞれの地域特性を総合的に地方整備へと活かしていくことを求めている。

静岡市においては、県都の玄関口となる御幸通りを中心とした景観検討が進められている一方、沿道では市街地再開発事業等が計画され、中心市街地の具体的な都市像が無い状態で個々のプロジェクトが進行している。

そこで本研究では、静岡の中心市街地における地域特性を活かした都市計画の基本方針を長期的視点から提案し、それにより導かれる都市イメージを作成することを目的とする。

2. 計画の範囲

研究の対象は、静岡市中心市街地の都市計画である。本研究における「静岡市中心市街地」という言葉は、「静岡市中心市街地活性化基本計画」で指定された範囲のうち、図1に示した区域を対象とする。

3. 静岡市中心市街地における地域特性

3.1. 都市形成過程における地域特性

都市形成過程における地域特性として以下

の点をあげる。①景観視点によって位置決定された「通り」と「辻」の意識が重要視され都市形成された。②中世、近世、近代の3つのゾーンから都市形成され、それらを結ぶものとして御幸通りが位置づけられる。

3.2 現況利用における地域特性

現況利用における地域特性として以下の点をあげる。①駿府城公園を中心に公共・公的施設の集積。②主要道路交通量の減少。③モニュメントや植栽等、街の魅力となるものの不連続性。

3.3 他都市との比較における地域特性

城址公園を持つ他都市との比較調査の結果、静岡市中心市街地の地域特性として「駿府城公園と主要駅との近接性」があげられる。

3.4 長期的視点における地域特性

長期的視点における地域特性として以下の点があげられる。①人口減少・少子高齢化の進展。②市街地の拡散。③経済活力の減退。④観光機能の改善傾向。

4. 静岡市中心市街地の課題

静岡市中心市街地の課題として以下の点をあげる。①身体感覚的な課題。②視覚的な課題。③意味的な課題。

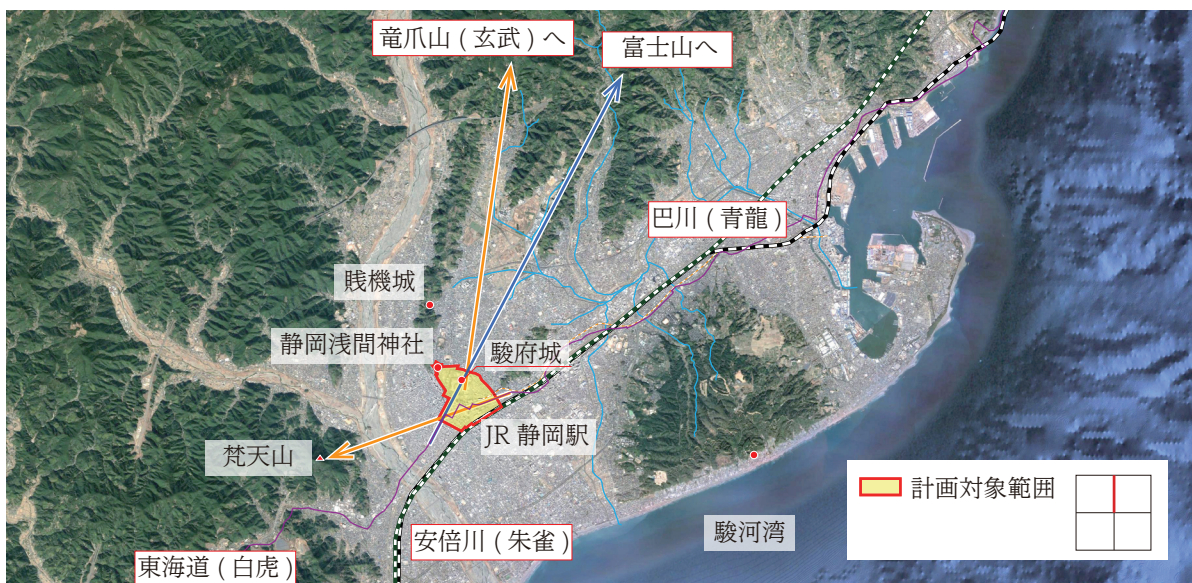


図1 計画対象範囲

5. 提案

5.1 基本方針

駿府城公園と主要駅との近接性を活かし、整備ベクトルを定める(図2)。

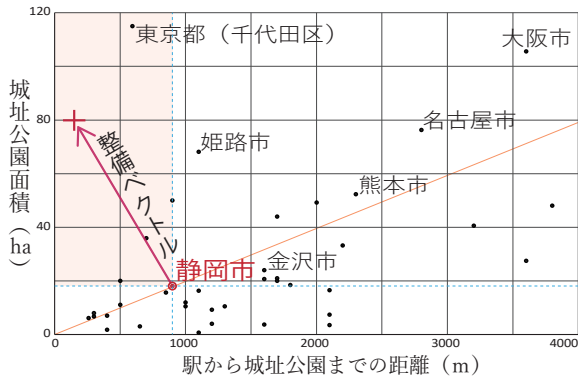


図2 城址公園を持つ都市比較と整備ベクトル図

具体的には駿府城公園および静岡駅北口を緑化推進 ZONE と位置付け、公園的面积を拡大することで近接性を強調する(図3)。さらに、「通り」と「辻」へ植栽や視点場を整備することで散在する環境資源を繋げていく。特に御幸通りを中心とし、静岡駅北口及び再開発地、江川町・中町交差点を重視する。また、本計画は、短期、中・長期と段階的に進めていくものとする。

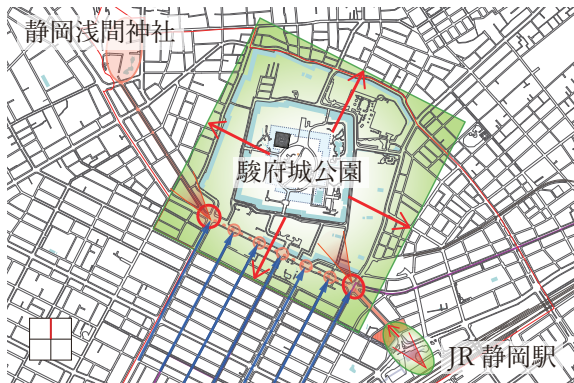


図3 都市構造概念図

5.2 詳細提案方針

基本方針に基づき、まちの操作を以下の通りとする。①車優先の都市から人が優先される都市へと地下道や車道等を改修する。②江川町交差点を飛び地再開発地と位置付け、天守への眺望を確保しつつ広場・親水空間として整備する。③屋外広告物等を規制し、景観整理を行う。

5.3 御幸通り詳細

御幸通りは、歩く質を高める視覚的な安定や余裕を感じられる空間とする。まず屋外広告、アーケード等を撤去・整理、車道減少による歩道拡張、植栽柵と植栽によって余裕を感じる空間を創出する。

5.4 静岡駅北口及び駅前再開発地詳細

静岡駅北口及び駅前再開発地は、県都の玄関口として、緑によって迎えることができる駅前広場と山のような建築を提案する(図4)。

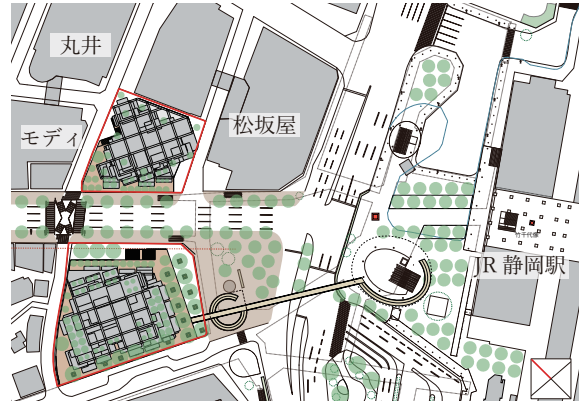


図4 静岡駅北口及び駅前再開発地詳細配置図

5.5 江川町交差点詳細

駅から正面に見える江川町交差点は、桜の森とし、江川町交差点から復元が求められている駿府城天守が見える視点場を整備する。さらに江川町交差点をお堀の親水空間として舟巡りができるように施設の提案を行う(図5)。

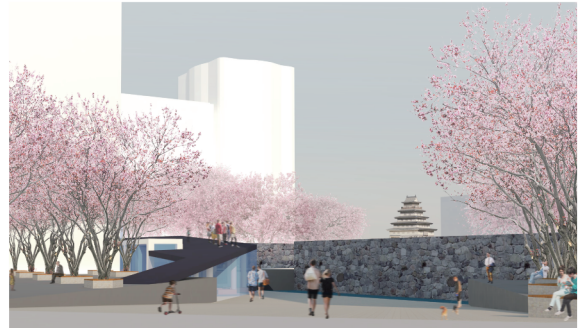


図5 江川町交差点パース

5.6 都市イメージの作成

提案の都市イメージとして、PHASE1、PHASE2 のフォトモンタージュ及び模型を作成した(図6・7)。



図6 フォトモンタージュ(静岡駅北口 PHASE2)



図7 模型 S=1/500 (1200mm×2400mm)